

## 国際クルーズ再開後のクルーズ船寄港状況について

本年3月、約3年ぶりに外国船による国際クルーズが再開されました。安全・安心で円滑なクルーズ船の受入れを進め、都心臨海部の賑わい創出及び観光による市内経済活性化につなげていきます。

### 1 これまでの経過

- 令和2年2月 ダイヤモンド・プリンセス船内における新型コロナウイルス感染拡大以降、世界的にクルーズが運航中止となりました。
- 9月 国内クルーズに係る業界ガイドラインが公表されました。
- 10月 国及び県・市の衛生・危機管理主管部局等を含む関係機関で構成されるクルーズ船受入に関する協議会を設置し、受入条件等を協議しました。
- 11月 乗船前の全乗客のPCR検査等を条件に国内クルーズが再開されました。
- 令和4年11月 国際クルーズに係る業界ガイドラインが公表されました。
- 12月 協議会を開催し、乗船前72時間以内の検査による陰性確認、船内隔離の徹底等を国際クルーズの受入条件に日本船による国際クルーズが再開され、令和5年1月に帰港しました。

### 2 クルーズ船の受入状況について

- 本年3月10日、ダイヤモンド・プリンセスを皮切りに国際クルーズが本格的に再開されました。
- 4月26日には、日本に寄港する最大・最新のクルーズ船MSCベリッシマが初入港しました。4月29日から横浜港発着クルーズをスタートさせ、12月まで27回クルーズが予定されています。



MSCベリッシマ

【総トン数：約17万トン、全長：約315m、乗客数：約5,700人】



ベリッシマ船内のプロムナード

【全長約90m、ドーム型LEDスクリーンの天井】

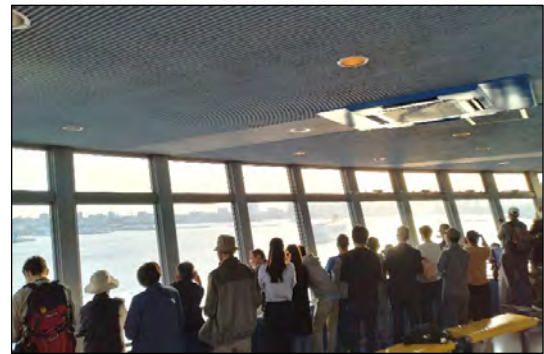
- 4月28日には、大黒ふ頭に2隻、大さん橋に2隻、新港ふ頭に1隻、合計5隻のクルーズ船が日本で初めて同時に着岸しました。
- 国際クルーズ再開後、2か月間のクルーズ船寄港数は42回で、延べ約8万7千人が乗下船しました。
- この間、船内で新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認された事例もありましたが、クルーズ船運航会社や検疫当局等と連携し、ガイドライン等に基づき、船内隔離等により適切に対応しました。

### 3 スカイウォークの一般開放について

- 横浜港への理解を深めていただくため、土・日曜、祝日を中心にスカイウォークを広報施設として無料で開放しています。
- 国際クルーズ再開後、2か月間で延べ10,832人、ゴールデンウィーク期間中は6,462人の皆様にご来場いただきました。
- 日本初の5隻が同時着岸した4月28日には、令和4年6月のリニューアルオープン以降最多となる1,297人の皆様が訪れ、大変ご好評をいただきました。



スカイウォークからのクルーズ船の風景



スカイラウンジの様子

### 4 今後のクルーズ船受入について

- 本年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことを受け、ガイドライン等が廃止・見直しされました。
- 横浜港としては、感染の急激な拡大や新たな変異株の出現等に備えるため、国及び県・市の衛生・危機管理主管部局等、地域の関係機関で構成されるクルーズ船受入に関する協議会については、当面の間、存続させることとし、引き続き、各クルーズ船運航会社と連携を図っていきます。
- 今年度の寄港回数は、過去最多を記録した令和元年の188回を上回る約200回と見込んでいます。
- クルーズ船の寄港による観光を市内経済の活性化につなげていくため、「クルーズ・フレンドリー・プログラム」を実施しており、関内・関外地区の飲食店等83店舗の協力を得ながら、クルーズ船のお客様への割引、英語対応等のサービスを行っています。
- 発着港である特性を生かし、旅行会社等と連携しながら、市内ホテルへの宿泊プランの案内などに取り組むとともに、地元事業者の皆様と連携して、花火、夜間遊覧クルーズ、水際線で行う夜間のマルシェの開催等を進め、クルーズ前後の市内宿泊を促進します。



クルーズ・フレンドリー・プログラム



宿泊プランの案内(サロン・ド・ヨコハマ)



ベイウォークマーケット